



図工室から

VOL1

令和5年4月26日

馬橋小学校

馬橋小学校の図工科の教育にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。
昨年度より始めた「図工室から」では、本年度も図工の授業における子どもたちの取り組みや作品をお伝えしていきます。

目や手先、体全体で色や形のよさを見つけ、味わうことは図工において大切な学びの姿です。学びの結果である作品の出来不出来に目が行きがちですが、より大切なのは目には見えない、子どもの中で生まれた感動です。生き生きと自由な発想を広げたり、思いを形にしようと真剣に制作をしたりと、授業で子どもたちが見せてくれる魅力的な姿から、目に見えにくい子どもの中で生まれた感動をキャッチしようと努めています。家庭、地域の皆様にも、こちらに掲載する写真や文章を通して、学習の過程で子どもたちの中で育まれている感性を少しでも感じ取っていただければ幸いです。

図工専科 直本 鉄平



第1回の「図工室から」は、4年生の「絵の具でいろいろ色もよう」を紹介します。
絵の具は筆を使って描くのが基本的な使い方ですが、別の道具類も活用することで面白い表し方が可能です。本題材では、いろいろな道具の扱い方や組み合わせを工夫し自分だけの模様を見つけるとともに、新たな絵の具の表現方法を身につけることを目標としています。

網と歯ブラシを使った「スパッタリング」や、紙と紙の間に絵具を挟んで模様をつくる「デカルコマニー」、ペンのキャップなどをスタンプ代わりに使った「スタンピング」など、偶然性を生かしたこれらの表現は『モダンテクニック』と呼ばれています。

20世紀初頭、マックス エルンストをはじめとしたシュルレアリズムの画家たちが活用した技法です。

未来のアーティストたちは、絵具や道具を工夫して扱い、面白い模様をつくる活動に意欲的な姿勢で取り組みました。



馬橋小学校 図工専科 直本 鉄平